

## 「ユネスコセミナー in Osaka」で本校生が発表しました

能勢高校では平成22年にユネスコスクールに認定され、様々な場面でESD (Education for Sustainable Development = 「持続可能な発展のための教育」) 活動を展開しています。

昨年夏、8月18,19,20日の3日間、大阪府立大学と能勢町で開催された、文部科学省/大阪府立大学/大阪ユネスコスクール(ASPnet)ネットワーク主催・共催による「アジア/太平洋小・中・高・大学生ESD国際ワークショップ, 2011」では、タイ・フィリピン・中国・韓国・国内各地からの児童・生徒・教職員等も迎えホスト校を務めました。

またその後の活動を、秋には9月文化祭での東日本大震災支援活動、10月に大阪府総合学科教育研究大会での発表、11月に能勢地域小・中・高一貫教育研究発表大会での発表、大阪日日新聞の取材と新聞掲載という形で積み重ねてきました。

さてこのたび、1月29日に大阪府立大学で開催された、文部科学省/大阪府立大学/大阪ユネスコスクール(ASPnet)ネットワーク主催・共催による「ユネスコセミナー in Osaka」において、1年生の上田杏奈さん、上田夏美さん、野瀬楓水さん、向井真琴さんの4名が、「アジア/太平洋小・中・高・大学生ESD国際ワークショップ, 2011活動報告～その後～」という題で発表しました。4人は自分の言葉で一つ一つの活動を語り、メッセージは中国と国内各地からの150人の参加者に伝わって広がりました。発表は参加者大方の高評価を得て、これからの活動に対する励みにもなりました。貴重な機会を与えていただき、どうもありがとうございました。また会場には8月の写真と成果がパネル展示され、他の多くの参加者も夏の学びをきっかけに変わっていく周囲と自分について語っていました。

私たちのユネスコスクール活動は、個々の参加校の実践活動が大きな理想に向かって進んでいく草の根の力として、世界と日本でみんながつながっていることを信じて、これからも連帯と精進を深めていきたいと考えています。

